

新たな時代に向けて飛躍の年に

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、日頃から町政の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、5月に元号が「平成」から「令和」へと変わり、埼玉県においては、8月に16年ぶりとなる新知事が誕生し、新しい時代の到来が感じられる一年となりました。

一方で、台風による水害が発生し、特に台風19号による記録的な大雨は、各地に甚大な被害をもたらしました。被災されました方々には、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

寄居町においても、観測史上最大となる雨量を記録し、町をあげて対応に当たったところであり、各自治会におかれましては、行政では対応しきれない部分を、共助の姿勢で、ご対応いただき、感謝と御礼を申し上げますとともに、大規模災害が、想定外ではなく、これからの

時代に対応していくためには、行政だけではなく、地域のつながりが非常に重要であると改めて実感した次第であります。

そうした中であって、明るい話題も多くありました。産業分野で申し上げますと、7月に県企業局と産業団地整備事業に関する基本協定を締結し、桜沢地区（仮称）産業団地が整備されることとなりました。また、ホンダ寄居工場の生産集約化を見据え、東武東上線において新駅が、本年秋季に開業されること発表されました。さらに、中心市街地活性化事業も2年目を迎え、町民の皆様のご協力により、事業が順調に進んでおります。これらの目に見える変化を強い追い風とし、未来にしっかりと目を向け、さらなる町の発展につなげてまいりたいと考えております。

さらに、本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。町といたしましては、ホストタウンとして交流を続けておりますブータン王国陸上チームが、オリンピックの舞台で100パーセントの力が発揮できるよう、全力でサポートしてまいります。

よりい新時代へ、それぞれの笑顔の花を咲かせたい

明けましておめでとうございます。町民の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より町議会活動に対して温かいご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年4月には寄居町議会議員選挙が行われましたが、「無投票」で、昭和30年に現在の寄居町となって以来、64年目にして初めての結果となりました。改めて地方議員のなり手不足、人材不足を目の当たりにして、改革の必要性を痛感したところであります。そうした中、私は昨年5月の臨時議会第55代の町議会議長に、そして6月には埼玉県町村議会議長会会長に就任いたしました。

ふるさとに愛と誇りを

「ふるさと寄居町は住みよい町になっていきますか」「希望の持てる町になっていきますか」意見の分かれる質問かもしれませんが、ひとつだけ確かなことは、住みよい町、希望の持てる町にしていく主役、それは3万3000人の町民一人一人、今この文章を読んでいただいでい



寄居町長 花輪 利一郎

また、町出身のアスリートのオリンピック出場も大いに期待される中、パラリンピックにおいては、埼玉県の採火式が寄居町でも開催されることとなりました。町民の皆様には、この世界最大のイベントを身近に感じていただき、特に子どもたちには、オリンピック・パラリンピックの開催を通じ、大きな夢を持ち、新たな時代への扉を開き、世界に羽ばたいていただきたいと切に願っております。

町政におきましては「第6次寄居町総合振興計画前期基本計画」が4年目を迎えます。今年、本計画の後期基本計画の策定に着手する年でもありますことから、これまでの事業の実施状況をしっかりと検証し、後期基本計画の策定

に生かし、新たな時代に対応した実効性のある計画にしていきたいと思います。町民の皆様により一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

私も、初心に立ち返り、「見ます 聴きます 話します 説明と納得のまちづくり」を信条に、引き続き、町政運営にまい進してまいりたいと、決意を新たにしたいところであります。

結びに当たり、本年が町民の皆様にとりまして、笑顔があふれ、幸せな年となりますことを心からご祈念申し上げます。町にとりましても、さらなる発展に向けた飛躍の年となりますことを念願し、新年のごあいさつとさせていただきます。

「あなた」です。

寄居町は大きな可能性を秘めた町だと思います。その可能性の扉を町民の皆様とともに開けてゆく先導役を果たすことが、議会の役割のひとつだと考えています。

世界を見渡せば、自然条件の厳しい場所にも多くの人が住んでいます。肝心なことは「誰かがやってくれるだろう」から「私に何ができるか」への発想の転換です。そのためには、住んでいる町、ふるさとをどこまで愛せるか、住みよい町にするために努力、協力できるかだと思います。

さて、昨年を振り返りますと、5月1日には31年続いた「平成」から「令和」への改元により新しい時代が幕を開けました。また、埼玉県も会場となったラグビーワールドカップ2019では、日本代表の大躍進もあり、日本中が「ONE TEAM」となりました。

一方、自然災害による被害も甚大であり、台風15号、19号では関東地方への直撃により、寄居町においても多くの被害がありました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。気候条件が大きく変化している

ことで、30年に一度といわれる規模の台風が毎年日本に上陸する時代となりました。風水害による被害を最小限に食い止めることは、我が町にとっても急務であります。

「チーム寄居」を全員参加で

4年前から寄居町議会では、議会改革を進めてまいりました。議会基本条例の制定に始まり、議会報告会・意見交換会の開催、議会発の政策サイクルの展開、また広報広聴活動の充実により「議会だより」は2年連続日本一となりました。

議会改革とは議会の体質改善です。しかし、真の目的は議会改革

の成果を町民福祉の向上に結びつけることであり、それができなければ何の意味もありません。寄居町議会は結果を出すことで、皆様の負託に答えてまいりたいと思っております。

結びに、少子化・高齢化が進む状況にあって「幸せな人生100年時代」を迎えるためには、時代の大きな変化に対応することが求められます。価値観が多様化する中で、自らの幸せの形を追い求められる町でなければなりません。笑顔あふれる町を目指して、「チーム寄居」を全員参加でつくっていきましょう。



寄居町議会議長 峯岸 克明